

小倉電軌争議 (小倉市外北方)	九州聯合會本部	解 雇	九月七日	七〇名	待遇改善解 雇手當	貫 徹
--------------------	---------	-----	------	-----	--------------	-----

ロ、労働争議の概況

圓價の下落と重需インフレの強行で、輸出産業、重工業を中心に國內産業は多少安定してゐるかに見えるが、この安定は斷じて資本主義經濟機構の建て直しの表れではなく所謂一九三五、六の國際非常時の重壓を支柱とする極めて陰鬱な資本主義崩壊の一時的糊塗に過ぎない。

九州聯合會本年度の關係争議に於ても別表に示すが如く、争議件數、参加人員數が極めて尠少であるのは資本主義崩壊前夜の暴壓が非常時局の空名でカムフラードされてゐる前述の理由に外ならぬ。故に、かゝる情勢下に戦はれた争議は労働階級の最後の生命線を守守する「生」か「死」の闘争であつたので、争議の形態は必然的に尖鋭化し、テロ行動が横行して流血の惨事が争議に随伴するのが極めて平常化された。

殊に筑豊炭坑資本家は頑迷、暴虐にして、暴力専制、一切を暴力を以て解決せしめ日本石炭坑夫組合だけの關係に於ても本年度に入つて流血事件を惹起すること四回、同組合本部常在藤田務君の如きは暴力事件の犠牲となつて入院加療の重傷を負ふこと二回に及んだ。労働階級の最後の生命線に立ち、所謂非常時の重壓を蹴つて立ち上つた労働階級の必死の反抗は、國家産業に協力の誠意を捧げ、國家産業の發展、平和を阻害する頑迷無理なる資本家を徹底的に磨滅する九州聯合會の斷乎たる決意と相俟つて、争議は最後の勝利まで決然と戦はれ、要求條項の殆ど全部が容認されてゐるのは、本年度の九州聯合會關係争議が如何に正常にして止むに止まれぬ戦ひであつたかを實証するものである。

更らに、争議激發第二主義を排し、國家産業の維持、發展、平和に協力する健實なる労働組合主義の徹底化を圖る前年度の方針を踏襲、強化し、争議の最少化に努めた九州聯合會の運動の大方針が争議を未然に阻止したのは記録されざる争議部の業績として特に本報告に附加しておく。

六、政治部

既成政黨の腐敗墮落の醜態曝露と非常時の重壓へ對する完全なる屈服、無力化は、國民の政治的關心を去勢し、一九三五六年の國際非常時に對する全國民的關心は全く國民と政治とを隔離した。この間に於て左翼共產主義的政治行動は日本共產黨の獄中巨頭の轉向聲明を先頭に完全に没落し、資本主義の便衣隊フアツシヨの腐臭に群る反動的的思想運動の政治行動は斷片的に蠢動したが勿論、無力にして泡沫の運動に過ぎなかつた。今日の日本の政治動向を支配する期待が奇怪にも軍部と新官僚と稱する一群に懸けられようとしたが積年の醜弊は一舉にして排除さるべきもなく依然、國民生活は資本主義崩壊彌縫の重壓の下で飢餓、窮乏の中に呻吟してゐる。

かゝる情勢下に於ける九州聯合會の政治行動は労働階級の日常生活上の諸問題の直接處理に主力を置き、労働組合、農民組合、産業組合の組織的協同運動こそ明日の日本の政治を支配するものであることを確信し、毅然たる總同盟精神を奉体して社會大衆黨福岡縣支部聯合會と協力一体となり、無産階級政治運動の正道を前進した。

本年二月の福岡縣第四區の衆議院議員補欠選挙に對しては前述の見地より、徒なる選挙闘争で空費される尨大な努力と費用を省いて労働組合、農民組合、産業組合の協同運動を組織し、明日の政治へ備えることに全力を注ぐことを社會大衆黨福岡縣第四區支部協議會の名を以て聲明せしめ衆議院議員補欠選挙戦から退陣した。本年五月の門司市會議員總改選に臨んではセメント労働組合門司支部員の日常生活上の權益に重大な影響を持ち、門司市民の生活に對する直接的な關係を推斷し前市會議員セメント労働組合門司支部長白木清三君を擁立し、金権と官權の壓迫横行する腐敗選挙の中にセメント労働組合門司支部の同志諸君の献身的犠牲と努力に依つて見事再選の榮譽を獲得した。

その他、戸數割撤止に依る門司市税制改革、簡易保険低額診察拒絶の門司、戸畑、小倉の各醫師會に對する運動、福岡縣製氷工業組合が縣下の製氷業を獨占して強行した水價吊上げ反對の運動等、常に労働階級の日常生活權益を守り、社會大衆黨福岡縣支部聯合會の主動部隊として健戦を續けて來た。

七、會計部

九州聯合會の會計部報告は例年大會へ上提し豫算、決算委員會の精密なる審査を経て大會へ報告し、以て組合員諸君の嚴正なる精査検討を乞ふこととしてあるので、特に本報告書より省界する。